

<指導の実際>

① 教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・スクールダッシュボード 振り返りワークシート

○それぞれの分野において、自分の生活を改めて振り返るよい機会となり、クラス全体で解決策を考えることによってクラスなりの解決策を考えることができた。

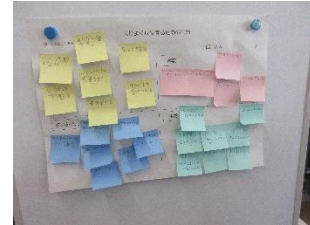
●子どもたちのできる解決策とは何だったのか。自己決定ができる時間の確保が少なかった。

② 指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手だて③ 対話を通して学びを深める

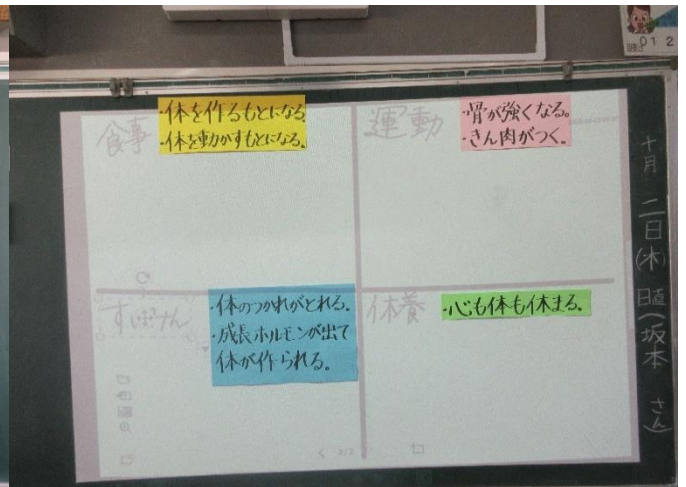
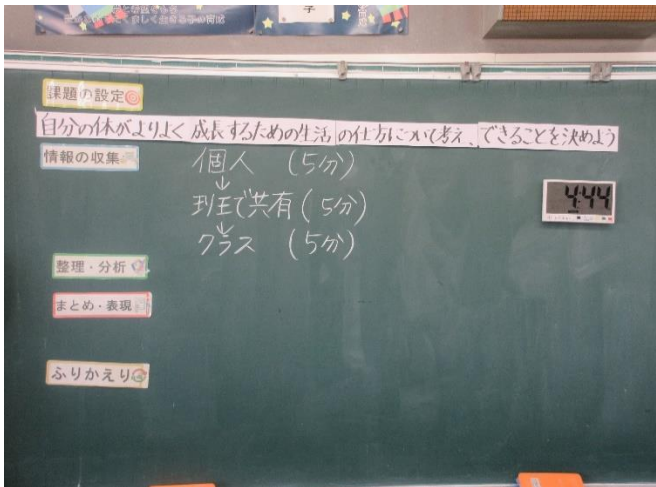
グループで対話しながら他のグループの意見を見て回る場を設定することで、児童同士で行動内容の価値付けを行ったり考えを深めたりすることができるようにした。



手だて④ ホワイトボードの活用

グループでまとめたプリントをホワイトボードに貼ることで、考えを交流し、グループで対話して学習を進められるようにした。

<授業後の板書>



<協議会>

授業者の意図・反省

- ・自己決定を子どもたちと夢中になり考えていたら、時間を忘れてしまい、授業アンケートを時間内に終えることができなかった。
- ・おはようメーター・あすなろメーターともによい傾向にあった。
- ・保護者の協力により、一週間のチェックシートから寝る時間・起きる時間・朝食はよいデータだった。しかし、保護者から「休日も規則正しく」というコメントもあるため、それぞれの課題があることが分かった。
- ・運動が苦手な児童へは、「毎日走ればよい」と言っているが、どうしたらよいのか。切り返し発問したおかげでクラスなりの解決策を出すことができた。

研究協議(○成果 ●課題)

【教育データの活用について】

○事前のチェックシートをお家の人に見てもらったことで、自分自身の本当の課題を見付けることができていた。

○事前に蓄積させたおはようメーターの結果と保護者の思う児童の生活習慣に差があったことが分かり、児童が今後自身の生活を見つめる際の基準が上がると考えられる。

- 授業後の児童の見取りを読み取ることが大切である
- アンケート内容で授業の中のどの部分に迫れるのか分離して整理できるとよい。

【授業について】

- 児童との対話で、対話から考えが広がっていく展開がよかった。
- 始めに本時の流れについて全体共有を図っていたことで、児童が見通しを持って活動できていた。
- グループで考えを見合ったため、共有の時間は省き、その分、発問を吟味し行うとよかった。
- 行動目標について、数字で示すとより具体的になったと思う。

指導講評

教育研究所 主任指導主事〔兼〕係長 白田 大地 先生

- ・単元時数4時間を5時間で進められている。弾力的、児童の実態で組んでいただいているが、その1時間分のカリキュラムマネジメントを考えるとよい。
- ・目標からの手立てが沢山組まれていた。
- ・シンキングサイクルの掲示物があることで子どもが見通しをもって授業することに慣れている感じがした。日頃の授業でそうしているからだろう。ゴールに対して見通しをもって取り組むことができた。
- ・ホワイトボードはワールドカフェのようで、手立てとして悪くはない。子どもにとって有効であった。しかし、オクリンクプラスで行うことはできなかったであろうか。「いつでも振り返ることができる」ためには、ICTが有効である。
- ・「対話を通して学びを深める」はどの教科でもある手立てである。4と5が一緒になってしまった。「他のグループからよい情報を得られたものはなかったか」などと4の5の差別化を図りたかった。
- ・4つに分けている内容は、食事・運動・休養及び睡眠の3つの内容。休養と睡眠は切り離せない。ゲームをださなくても「音楽を聴く」「お笑いを見て笑う」などを取り上げて「お笑いを見すぎると睡眠が削られる」など発問の吟味をするとよい。
- ・自己決定の場では、時間が大切。子どもが考える暇がなかった。シンキングサイクルと言ったときにどのようにその時間を生み出すのが重要になる。子どもは落ち着いてよく考えていた。
- ・保健は「心」であるので、長期的な活動になるように支援していく。教科横断的な関わりになることが教科書に載っている。スクールダッシュボードから高学年になると数値が悪くなるのが分かっているならば、どのような目標をもってどのような手立てをうつのかを考えることができるだろう。
- ・指導案は手紙である。

教育研究所 主任指導主事 秋永圭子先生

- ・スクールダッシュボードを生かした授業は先端で、市学調と照らして考えているところはよい。
- ・就寝時間が年齢が上がるにつれて寝る時間が遅くなっている様子が見られる。5年から6年には3倍になっている。
- ・家庭環境の要因も考えられる。
- ・学年が上がっても、今みたいに朝食を食べることを大事にしたり、決まった時間に寝たりすることがような指導のねらいと工夫が必要なのではないだろうか。
- ・望ましくない傾向に歯止めをかけていくことが、データの活用になるのではないだろうか。今後、子どもたちの動向を追っていただきたい。
- ・評価の可視化ができるのがデータ活用の意義である。